



地域と大学を結ぶ広報誌

# 城西

Vol. 28  
2019.4

## 平成最後の 入学式

新たに2158人が城西の仲間、に

城西大学  
城西短期大学

新シリーズ **ゼミ**登場

「数学×情報技術」シミュレーションを研究(藤田セミナー)

地域と交流しながら福祉を熟考(おれんじカフェ)

川角駅周辺整備で毛呂山町と協定

通学路の混雑解消など悲願実現へ

大澤さん オリジナル料理コンテスト優勝

目次

- 02 平成最後の入学式  
新たに2158人が  
城西の仲間、に
- 03 平成30年度学位記授与式  
卒業報告会  
スポーツ優秀団体・優秀選手表彰  
40年永年勤続表彰  
22号館完成 総床面積8381平方m
- 04 大澤さん オリジナル料理コンテスト優勝  
「坂戸・夏よこい」経済効果1億3500万円超  
「高麗川かわガール」の発表に大きな拍手
- 05 通学路の混雑解消など悲願実現へ  
川原さんの作品が「週刊読書人」に  
210社参加「2019城西大学就職セミナー」  
「第5回 中欧+日本 学生会議」
- 06 **【新シリーズ】ゼミ登場**  
「数学×情報技術」シミュレーションを研究  
(藤田セミナー)  
地域と交流しながら福祉を熟考  
(おれんじカフェ)
- 07 **【新シリーズ】フォーカス**  
越生町立越生小学校・栄養教諭 小林洋介さん  
附属城西高校グリー部
- 08 **【シリーズ】先輩訪問**  
わたらせ渓谷鐵道・前社長 松島茂さん
- 09 **【シリーズ】図書館だより**
- 10 **【新シリーズ】美術館通信**  
考古資料室新設と  
モバイルミュージアム考古資料展示  
特別展の関連企画を開催  
中学生が美術館業務を体験
- 11 **【エリア紹介】**  
坂戸市 坂戸市民スポーツフェスティバル  
鶴ヶ島市 2020年に向けて生まれる交流  
東武線沿線情報 「川越特急」で  
春の小江戸を満喫しませんか？

題字：創立者 水田三喜男 先生

**今号の表紙**  
新年度に入って寒い日が続き、キャンパスの桜はまるで入学式を待っていたかのように満開になりました。希望を胸にこの日、城西生の仲間入りしたのは2158人。キャンパスは華やいだ雰囲気になり、桜をカメラに取る新入生や父母の姿があちこちで見られました。



平成最後の入学式

新たに2158人が城西の仲間、に

「チャレンジ精神を持ち、  
自分を確立してほしい」

——白幡晶学長

「心のアンテナを広く、高く、深く」

——上原明理事長

2019  
4.4

平成最後となる入学式が2019年4月4日、総合体育館で執り行われました。満開の桜が祝福する中、大学院、学部、短期大学、別科、健康市民大学合わせて2158人が新たに城西の仲間入りしました。

白幡晶学長は告辞で「今こそあえて、自らの能力を生かすために厳しい道へ飛び込んでいくチャレンジ精神を持つよう呼びかけたいと思います。そして、チャレンジした者だけが得られる充実感を城西大学で存分に味わい、確かな自分を確立してほしい」と語りかけました。

また、上原明理事長は「まず情報を集め、それを整理して考え、自分で行動を起こすことが重要。心のアンテナを広く、高く、深くして人様の意見を



幅広く求めていくことが大切」と激励しました。

石川清坂戸市長、米カリフォルニア大学リバーサイド校別科長ケビン・ヴォーン教授、久保浩二父母後援会長による来賓祝辞に続いて新入生代表が宣誓しまし

た。経済学部の関口青空さんは「新元号を迎え、私たち新入生一同は、現代社会が抱える様々な課題に果敢に挑む覚悟を持っていきます」と述べ＝写真④⑤、また短期大学の風巻和佳名さんは「2年間という限られた時間の中で、それぞれの目標に向けて真摯に勉学に励むとともに社会に貢献できる大人へ成長したい」と誓いました＝写真⑥⑦。



告辞を述べる白幡晶学長



祝辞を述べる上原明理事長

平成30年度学位記授与式

2019  
3.18

「未来を素晴らしい世界に」

——白幡晶学長

平成30年度の学位記授与式(並びに卒業証書授与式、修了証書授与式)が3月18日、総合体育館で執り行われました。昨年度、大学を巣立った卒業生は1692人で卒業生総数は8万5766人となりました。式典では学位記や証書が授与されたほか、学業やスポーツに顕著な業績を上げた学生たちが、理事長特別表彰を受けました。

白幡晶学長は告辞で、「皆さんが在学中に培った柔軟で誠実な感性と知識は、未来社会にとっても、かけがえのない財産になるはずで。皆さんが関わるコミュニティや日本を、これまでにない素晴らしい世界に変貌させてください」と、はなむけの言葉を贈りました。また、上原明理事長は「新しい時代に対応するため、生涯学び続けるという覚悟を持つことが重要。前向き発想でこれからの道を大きく楽しみながら、自分の人生を築いていただきたい」と語りかけました。

これに対し卒業生を代表して宮内早紀さん(理学部数学科)が「城西大学で得た様々な経験を弾みにして、社会でも活躍できるようにこれからも努力を継続していきたい」と答辞＝写真⑧。中山綾菜さん(短期大学ビジネス総合学科)も「一生懸命に努力する若い力は、わずかかもしれませんが、様々な場面で社会に貢献できると信じております」と決意を述べました＝写真⑨。

理事長特別表彰は次の通り。(敬称略)  
【学業賞】荒田潤(経済学部)▽市川奈美(現代政策学部)▽小村拓未(経営学部)▽宮下泰葉(理学部)▽佐野愛子(薬学部)▽坂井祐紀(短期大学)【スポーツ賞】渡部佳朗(陸上競技部)



22号館完成 総床面積8381平方m

2019  
3.23

キャンパスに新たに建設された22号館の竣工式が3月23日、執り行われました。22号館は鉄骨(一部鉄骨鉄筋コンクリート)造り7階建てで、総床面積は8381平方m。授業に使用される多くの講義室(1~4階)と薬学部の研究室・実習室(5~7階)を備え、2~7階は18号館と渡り廊下で連接。北側の階段部分は3階までガラス張りになっています。



当日は、上原明理事長、白幡晶学長や学生代表らがテープカットして完成を祝いました＝写真。

卒業報告会

卒業生15人が感謝と決意

卒業式に先立ち父母後援会から学費補助を受けた卒業生15人の報告会が清光会館で開かれました。報告会には上原明理事長や白幡晶学長、久保浩二父母後援会長、役職教員らが参加しました。

大学2年の時に父親を病気で亡くした浅沼史弥さん(経営学部)が代表して挨拶。「大学をやめるかどうか悩みましたが、学費共済制度が父母後援会にあると聞き、このまま中途半端なところでやめるわけにはいかない、在学最後まで頑張ることを決意しました。成長した姿を父に見せることは叶いませんが、卒業後は総合アパレルの販売員として明るく丁寧な接客を心掛けてまいります」と感謝と決意の言葉を述べました＝写真。



平成30年度 スポーツ優秀団体・優秀選手表彰

(敬称略・学年は3月現在)

【団体】男子駅伝部(出雲選抜駅伝と全日本大学駅伝で過去最高の8位入賞)▽陸上競技部(関東学生選手権で1部残留など)▽女子ソフトボール部(全日本大学選手権17年連続出場や坂戸市の機能別消防団の活動など)▽バレーボール部(2シーズン連続の昇格で6年ぶりに3部復帰)

【個人】上田未奈(経済学部4年)＝女子駅伝部▽中島公平(経営学部4年)、鈴木勝彦(同)、峠下拓斗(同)、金子元気(同)、服部潤哉(同)、荻久保寛也(同3年)、西嶋雄伸(同)、中原佑仁(同)、大里凌央(同2年)、山本嵐(同1年)＝以上、男子駅伝部▽福田博貴(経営学部4年)、渡部佳朗(同)、川越広弥(同3年)、水久保漱至(同2年)、鈴木涼太(同1年)＝以上、陸上競技部▽河野聖也(経営学部2年)、柳沼楽人(同1年)＝以上、硬式野球部▽江口菜摘(経営学部4年)、市沢美佳(同)、大塚彩(同)、馬場ほのか(同)、木村愛都美(同)、富沢真嬉(同)＝以上、女子ソフトボール部▽中田稜大(現代政策学部4年)、猪口礎生(同)、大澤潤矢(経営学部4年)＝以上、サッカー部▽黒田湧太(現代政策学部4年)、道源康太(同)、保科太良(同)、宮原康輔(同)＝以上、男子ソフトボール部▽甚野訓章(理学部4年)＝弓道部▽江本和輝(経営学部3年)＝準硬式野球部

平成30年度 40年永年勤続表彰

若林英嗣・理学部教授▽宮前博・理学部教授▽井口毅裕・薬学部助教▽神田勉・学生課長▽安野春美・調達課▽山下美枝子・経営学部事務室▽石井宏・情報科学研究センター

# 大澤さん オリジナル料理コンテスト優勝

2019  
2.11

## ——アイデア満載「イカスミインスタントリゾット」

「インスタントラーメン オリジナル料理コンテスト2019」で医療栄養学科1年の大澤幸之助さんが見事、優勝しました。コンテストは日本即席食品工業協会が主催し、栄養士や調理師など食のプロを目指す学生を対象に実施しているもので、今年が17回目。

今回から「手軽で簡単に調理できる“時短レシピ”」をテーマに設定。全国から1397通の応募があり、書類選考を通過した12人が2月11日、東京都豊島区的女子栄養大学駒込キャンパスでアイデアメニューを15分以内で調理し、「おいしさ・栄養バランス・独創性・盛り付け・調理時間」を競いました。

大澤さんの作品「イカスミインスタントリゾット」は、シーフード味のカップのインスタントラーメンを細かく砕いて、炒めたイカにイカスミソースなどを加えてリゾット風に。これをインスタントラーメンのカップを型に盛って盛り付けて、トマト缶で作ったトマトソースとアイオリソースを付けました。

表彰式後、大澤さんは「よくても準優勝だと思っていました。(優勝を)狙ってやったのではなく、塩分濃度を工夫したり、容器を型に使った



インタビューに笑顔で答える大澤さん

りと色々アイデアを出したのが受けたのだと思います。医療栄養学科なので、それほど料理はやらないが、これを自信にして勉強につながれたら」と喜びを語りました。



大澤さんの作品「イカスミインスタントリゾット」

# 「坂戸・夏よさこい」

## 経済効果1億3500万円超

2018  
12.2

### 経営学部生、学習サークル「蛭川簿記塾」参加プロジェクトが算出

「坂戸・夏よさこい」の経済波及効果は——。経営学部の「まちづくり」授業に参加する学生約350人と学習サークル「蛭川簿記塾」の学生が参加した経済波及効果測定プロジェクトの結果、1億3500万円を超える効果があったことが分かりました。

「まちづくり」授業は、地域のイベントなどに参加して、まちの活性化に必要なノウハウなどを学び、将来、地元に戻った際にまちづくりに貢献したり、将来のキャリア形成につなげたりすることを目的とした講義。学生たちは昨年8月18日と19日に行われた「坂戸・夏よさこい」の来場者にアンケートを行い、観光客数や観光客1人当たりの消費額など算出に必要なデータを収集、蛭川簿記塾の学生が、埼玉県総務部統計課の作成する経済波及分析ツールを活用して算出しました。

プロジェクトの報告会は12月2日に坂戸市緑町集会所で開かれ、同学部の鈴木美緒さん(当時4年)と橋本裕弥さん(同3年)が報告を行いました=写真。地元の人たち90人が参加し、経済波及効果が1億3500万円を超えたと報告されると、参加者からは驚きの声。最後に、翌年以降、坂戸・夏よさこいの経済波及効果を上げていくための提言がされると、参加者は真剣に耳を傾け、うなずく姿も見られました。



# 「高麗川かわガール」の

## 発表に大きな拍手

2019  
2.2

### ——埼玉県主催「川の再生・交流会2019」

高麗川の美化活動や水質検査、生物調査などさまざまな活動を展開している「高麗川かわガール」が2月2日、さいたま市内で開かれた埼玉県主催の「川の再生・交流会2019」でこれまでの活動を発表しました=写真。高麗川かわガールは、「かわかどかヌー倶楽部」が前身で、2015年に発足。本学の学生や大学院生が中心ですが、地域の方々も含め世代を超えて参加者が広がっています。この日、基調講演をした東京学芸大学の吉富友恭教授によると、「ガール」の語源は「むじゃきな若者」との説明がありました。

発表は大学院薬学研究科の小林亮介さん、小田桐康紘さん、野村佳歩さん、小林由希さんの4人が行いました。まず、小林亮介さんが、これまでの経緯や活動内容を紹介しました。小田桐さんは「定例美化活動～ゴミの分析～」を発表。「多和田地区のゴミを分析したところ、ペットボトルや発泡スチロールなどプラスチックゴミが65%を占めた」と説明しました。野村さんは、トレイルカメラ(センサーカメラ)を使った野生生物の観察結果を発表。イノシシなどの興味深い動画も上映し、30種以上の生物が観察できたと報告しました。最後に小林由希さんが、地域との交流について報告。

「今後も川での活動を続けることで、学生と地域の方たちが高麗川を誇りに思い、世代を超えて伝わる自然環境の再生活動が世界中に広がることを願っています」と結ぶと、ほぼ満席の会場から大きな拍手が送られました。



# 川角駅周辺整備で毛呂山町と協定

## 通学路の混雑解消など悲願実現へ

2019  
2.27

川角駅周辺地区整備事業に関し、学校法人は毛呂山町と協定を締結しました。南口改札へ向けた駅舎の移設をはじめ、駅前広場や大学へのアクセス道路の整備など悲願実現への動きがスタートしました。3月18日の学位記授与式の後、上原明理事長と井上健次毛呂山町長が協定書(日付は2月27日)を交わしました=写真。

同駅周辺の交通渋滞や通学・退校時での交通事故の危険性などが、長年の懸案となってきました。このほど、本学と毛呂山町が駅周辺地区の整備について合意。東武鉄道と協議しながら事業がスタートすることになりました。今後、毛呂山町は駅舎の移設に関して東武鉄道と設計を進めるとともに駅前広場とアクセス道路整備のための用地買収などを行います。工事は2020年度の着工を目指しています。



### 白幡晶学長コメント

「川角駅の整備によって踏切や正門までの通学路の混雑が解消されれば、学生諸君はもちろんのこと多くの大学関係者や近隣の方々にとっても、大きな朗報です。長年のこの懸案事項を解決に向けてスタートさせるまでには、上原明理事長と井上健次毛呂山町長にひとかたならぬ御尽力をいただきました。大学を代表して心から感謝申し上げたいと思います」

# 川原さんの作品が「週刊読書人」に

## ——稲盛和夫著「考え方」を書評

2019  
2



川原孝太さん

書評専門紙「週刊読書人」2月8日号の「【書評キャンパス】大学生がスズメの本」コーナーで、経営学部4年の川原孝太さんの作品が採用されました。川原さんは、京セラやKDDIの創業者として知られる稲盛和夫氏が著した「考え方」を書評しました。

昨年度から図書館学生アドバイザーを務める川原さんは、関口千登世事務長の勧めで1月に応募。稲盛氏の本は、経営コンサルタントも務める非常勤講師の今西一先生から勧められたのがきっかけでした。書評では、自らの体験を披露したうえで、「どのような

「考え方」を選択するかによって、自分の人生を、素晴らしいものにつくり上げることもできれば、壊すことにもなる」という著者の言葉を引いて、「苦難苦境にあった時、(中略)これは自分の人生を素晴らしいものにするための格好の機会だとさえ前向きに、ポジティブに考えることが大切なことだ」と結びました。

「単なる感想ではなく本をどう伝えるかに苦勞しました」と語る川原さん。岩手県盛岡市の出身で、「将来は東北に貢献できる経営者になりたい」という夢を持っています。

なお、川原さんの書評は週刊読書人ホームページ【書評キャンパス】のサイトで公開されています=下記URL。

<https://dokushojin.com/content.html?genre=2&content=54>

# 210社参加「2019城西大学就職セミナー」

2019  
1.25

「2019城西大学就職セミナー」は1月25日、東京都・池袋のホテルで開かれました。セミナーには約210社の企業や団体の幹部や採用担当者約270人が参加、本学の教員と懇談しました。

第1部では、白幡晶学長の挨拶の後、就職部長でもあった薬学部薬科学科の徳留嘉寛教授が「科学的な目線で化粧品の有効性、安全性を考えることの重要性」と題して講演しました。

第2部の懇親会では、小野元之理事長特別補佐が冒頭挨拶。「城西大学は新しい体制の下、学生の教育を第一に考える大学に生まれ

変わろうと努力しています。私どもは、皆さまの会社の中で大きな糧となるように、学生たちを教育してきたつもりです。また卒業してもしっかりサポートしていこうと考えております。どうぞ安心してビシビシ鍛えていただければと思います」と述べました。父母後援会の久保浩二会長の挨拶に続いて、草野素雄短大学長が乾杯の音頭を取って、懇親に移りました=写真。



# 「第5回 中欧+日本 学生会議」紀尾井町キャンパス

## 「多様化する社会—外国人労働者との共存」テーマに意見発表

2019  
2.21

東京紀尾井町キャンパスで2月21日、「第5回 中欧+日本 学生会議」が開かれました。学校法人城西大学中欧研究所が主催、ドイツの非営利財団「フリードリヒ・エーベルト財団」が共催しました。

今回は、「多様化する社会—外国人労働者との共存」をメインテーマに、チェコやドイツ、ハンガリーなど7カ国の協定校からパネリストとして学生が参加。冒頭、スロバキア大使館のユライ・ベトルシュカ参事官が挨拶で「『移民』『難民』に対する適切な政策は非常に重要なトピックであり、共生のため、早期の問題解決が必要」と述べました。

その後、テーマごとにパネルディスカッションに移り、中欧から参加した学生に加え、城西大学と城西国際大学の学生のほか、両大学にアジアやヨーロッパから留学中の学生たちが、意見発表を行いました=写真。



# ゼミ登場

藤田セミナー

藤田 昌大 教授

藤田セミナーHP

<https://www.josai.ac.jp/~fujita/Seminar/>

## 「数学×情報技術」シミュレーションを研究

「暖かい寝室の作り方」「洗濯物を早く乾かす方法」——東京紀尾井町キャンパス理学部数学科の藤田昌大教授が指導する「藤田セミナー」は、数学と情報技術に基づく流れのシミュレーションをテーマに研究し、発表会を開いています。冒頭のテーマは昨年度セミナーの4年生9人が取り組んだテーマのうちの2つ。もう2テーマは「オープンカーは快適か?」「地下鉄ホームの端に立つと危ない理由」でした。

セミナーは昨年度で3年目。工学部出身の藤田教授は「工学部と違って数学科のセミナーは卒論がないため、学生に達成感を感じてもらおうと発表会を始めました」と説明。「テーマは一見数学とは関係なさそうですが、流れのコンピュータ・シミュレーションというのは、もともと微分方程式。学生にとっては、1年から3年までやってきた数学の勉強を生かして応用数学に取り組むことになります」と語ります。

同キャンパスでの発表会は公開で1月17日に開かれました。学生と教職員合わせて27人のほか、4年生の内定先のICT(情報通信技術)企業の人事担当者9人も参加しました。藤田教授は「学生は大変

だったと思いますが、発表会後の打ち上げでは達成感を感じてくれているようでした。発表会は、数学科の勉強が産業に役立つということを示すと同時に、企業に対する学生のリアルなアピールの場でもあります。産学連携の一つとして、発表会にはこれからも企業の方に参加していただきたいと思っています」と話しています。



藤田昌大教授



藤田セミナーでの発表風景

おれんじカフェ

真殿 仁美 研究室

## 地域と交流しながら福祉を熟考

地域の人たちと交流しながら地域への理解を深め、福祉の実現について深く考える——現代政策学部の実験仁美研究室が手掛ける「おれんじカフェ」の狙いです。きっかけは、ゼミ生募集時の面接で学生から「地域の皆さまと交流を持ちたい」という意見が多くあったこと。昨年度はゼミ生18人とともに、坂戸市のシャローム地域包括支援センターや市の高齢福祉課の方々や勉強会を開くなどして高齢者福祉をはじめ認知症や「おれんじカフェ」について学びを深めました。「カフェ」の開催は昨年度、前期3回、後期7回を数えました。

その報告会は1月15日と22日に開かれました。第1回は、真殿准教授から活動に取り組んだ経緯などについて説明があった後、活動を支えていただいた地域の団体や個人の方の発表があり、「学生の成長を感じた」「ボランティア経験をさらに積んでほしい」などの意見がありました。

2回目は、学生たちが3班に分かれて、活動で得たものや発見した課題などを発表。「交流する上での新たな知識や関心を得たほか、学生の視点では気づかなかった社会問題や社会情勢について考えるきっかけになった」などの意見がありました。真殿准教授は「学生は一人ひとり持ち味があり、豊かな個性・能力を有している。教育や地

域活動への参加を通じて、学生が有する力を伸ばしていきたい。教育は効率とは対極にあるが、学生の成長への取り組みをこれからも続けていきたい」と話しています。

おれんじカフェ 認知症カフェとも言われ、認知症の方とその家族、地域住民や専門職など誰でも参加でき、気軽にお茶を飲みながら認知症や高齢者などに関する相談や意見交換を行う場所。認知症サポーターの人が目印として、オレンジ色のプレスレット(オレンジング)を付けていることから、こう呼ばれています。



報告会後皆で「パチリ」

## フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンに登場いただくとともに附属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、一昨年の「全国学校給食甲子園」で優勝した越生町立越生小学校の栄養教諭、小林洋介さん(39)と、附属高校のグリー部に焦点をあてました。

## 食の大切さと楽しさを発信していく

越生町立越生小学校・栄養教諭 小林洋介さん

——“甲子園”の副タイトルは「地場産物を活かした我が校の自慢の料理」。参加2025校の頂点に輝きました。応募のきっかけは?

「2016年に越生小に赴任になり、越生の文化や歴史を勉強するうちに自分自身の研鑽とともに、越生のいいところを紹介することで地域の活性化にもつながるのではないかと応募しました。献立は越生特産の梅やゆず、埼玉県の地場産物を使った6品。梅やゆずは子どもたちが得意とする食べ物ではないので、ゆずにはハチミツを入れて酸味を和らげるなど味付けや色彩を工夫しました。『生産者の顔が見えるような献立』と審査員の方に言われたのがうれしかったですね。食べると越生の歴史や風景が浮かんでくるというのが、評価の最大のポイントだったのではないかと思います。優勝の後、食への関心が高まったのか、給食を完食するクラスが増え、残菜量が減少しました」

——給食管理以外ではどのようなお仕事を?

「食育の観点から、色々な教科の中で食に関するものを扱う際に担任教諭と一緒に授業に入ったり、学校ファームでジャガイモやサツマイモを作ったりと。また総合学習の中で、梅のもぎ取り体験やゆず



園見学のほか、1年生を対象にした調理場ツアーも行っています」

——これからの抱負は?

「栄養教諭の役割は、子どもたちに食事の大切さと食の楽しさを教えるとともに、地域や保護者に向けては、食のコーディネーター的な役割を担って地域や家庭の食を豊かにすることです。そのためにも食に関する情報を学校からどんどん発信していきたい。子どもたちには、給食は多くの人の努力でできていることを知ってもらい、人と食べ物に感謝の気持ちを持てるような子どもに育ってほしいと思っています」

——本学の医療栄養学科の学生にメッセージをいただけますか。

「『食』という漢字は、『人』を『良くする』と書きます。食を通じて人を良くしていくことは、とてもやりがいのある仕事です。学生の皆さんも、まず自分の食を大切に、その上で人の食生活を豊かにしていけるよう頑張ってくださいと思います」

## 定期演奏会50回超 地元FMラジオにも出演

附属城西高校グリー部

定期演奏会は50回を超え、文化部の中で伝統を誇るグリー部＝写真。3年生3人、2年生9人で新年度の活動をスタートさせました。練習は月、木、土曜日の3日間で約2時間。武蔵野音楽大学大学院(声楽)修了で顧問歴26年の二瓶光正教諭の指導で歌声に磨きをかけています。

入学式や父母会、PTA総会などで合唱を披露しているほか、父

母や教員らでつくる「城西混声合唱団」やOB合唱団との共演も行っています。合唱曲のほか、Jポップも。2007年と11年には、世界的な合唱団である



部長の中嶋祐珠さん(左)と顧問の二瓶光正教諭



チェコ少女合唱団「イトロ」と共演したほか、地元のFMラジオにも出演した実績があります。

東京都合唱連盟など主催の「春のコーラスコンテスト」では2016年に優秀賞、2017年には銅賞を受賞しました。両賞とも中学生で参加した中嶋祐珠さん(2年)が、高校の1年時から部長を務めています。中嶋さんは「歌うことが好きなので、中学から入部しました。先輩、後輩の関係はありますが、みんな仲が良く入って良かったです。合唱なので部活のメンバーと歌うと、いやなことも忘れる部分があります」とグリー部の魅力を説明。目下の悩みは、人数が少なく、大きなコンクールに出られないこと。中嶋さんは「多くの人たちが、部に入ってくれるようにアピールしたい」と語っています。

## 先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は、旅行番組でもよく紹介される「わたらせ渓谷鉄道」の前社長、松島茂さん(66)を群馬県みどり市に訪ねました。



# 「心に花を」 ——人の輪を作っていこう

わたらせ渓谷鉄道株式会社・前社長 **まつしま 茂**さん (1975年 経済学部卒)

### ——わたらせ渓谷鉄道の社長になられたきっかけは?

「1989年にJR東日本の足尾線を転換して誕生した『わたらせ渓谷鉄道』(わ鐵)の社長には代々、県の幹部が就任していましたが、赤字路線で県はやめたかったのですよね、鉄道そのものを。2004年に廃止か存続かで住民の声を取ったら、存続に決まった。県は、『それなら皆さんが運営しなさい』と。当時、私は合併前の勢多郡東村の村議会議長をしており、沿線の連絡協議会のメンバーだった。メンバーの中で比較的歳が若かったせいで、『お前がやれ』ということになったわけです」

### ——地方の鉄道。文字通りの「ローカル線」の経営は大変だったのでは?

「私も沿線の人間ですから分かっていたのですが、お客様を増やすのは無理なんです。色々メディアに取り上げられてもらって、乗ってもらってはいますが、沿線人口は確実に減って、お客様はどんどん減っています。引き受けた時の運営費の年間赤字は1億8000万円でした。補てんは沿線自治体にしてもらっているのですが、料理列車やビール列車、『駅からハイキング』などイベントの連発と経費削減で5年後に辞める際には赤字は9000万円までにしました。地方鉄道を守るのは大変ですが、沿線には渓谷の素晴らしさや足尾銅山にかかわる歴史など観光資源がたくさんあります。観光を軸にした鉄道を全面に打ち出していくことが、これからも必要だと思います」

### ——「みどり市観光ガイドの会会長」もやっておられます。

「『わ鐵』の大きな応援団なんです。列車に乗ってもらって、降りたところで案内する。メンバーは約30人。ピークの4、5月と10、11月は、私も月に10日前後は出ます。花輪駅近くにハナモモを1万本植えるプロジェクトも行っています。サクラは約1週間ですが、ハナモモは20日間ぐらいつつ。今は約4000本ですが、見ごろの時は、まさに桃源郷そのものです」

### ——どんな学生時代でしたか。

「ボウリング部に入ってボウリングに明け暮れていました。当時は一大ブームで池袋のボウリング場の支配人が大学の先輩だったこともあり、人気プロだった中山律子さんとテレビに出たこともあります。練習では何度もパーフェクトを出したこともあります。2レーンを交互に投げる公認試合は難しく、3ゲーム701点が記録です。プロになろうかと思いましたが、次第に人気が下火になりつつあって、家業の建材業に入りました。毎夏、富士吉田の民宿で行った合宿が一番の思い出です」

### ——好きな言葉を教えてください。

「『心に花を』という言葉が好きです。家を新築した際に知り合いの著名な書道家の先生に書いていただき、額に入れて居間に飾っています。心に1輪でも2輪でも花が咲いていけば世の中、うまく渡っていける気がします。『わ鐵』の社長時代もこの言葉に支えられました」

### ——城西生にメッセージをお願いします。

「友達を多くつくっていただきたい。たくさんの友達は、私の人生の財産です。我が家では、夏はバーベキュー、冬は鍋とホームパーティーをしょっちゅう開いています。これまでの仲間に加えて、知らない人を呼び込んだり。人の輪を作っていくことが、何をするにも一番大事なかなと思います」

### ■みどり市とわたらせ渓谷鉄道

群馬県みどり市は2006年3月、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併して誕生。群馬県の東部に位置し、地形は南北に長く、北部には足尾山地が連なり、その山塊に源を持つ渡良瀬川が市の北東から南東にかけて流れている。わたらせ渓谷鉄道は1989年、JR東日本足尾線から転換した第三セクター鉄道。桐生駅から間藤駅44.1\*。トロッコ列車などを運行。旅行番組などでも多く紹介され、沿線地域のPRに貢献している。

## 図書館だより

### 地域相互協力図書館主催 ビブリオバトルに城西大学学生が参加

城西大学の図書館学生アドバイザー2人が地域相互協力図書館主催ビブリオバトルに参加しました。11月11日の坂戸市立図書館主催「秋の図書館まつり第4回ビブリオバトル坂戸図書館」に経済学部4年の笠原銀太さん=写真⑤、12月22日の日高市立図書館主催「ビブリオバトル2018冬の陣」に経済学部4年の河村稜太さん=写真⑥がバトラーとして参加しました。2人とも出場者の中で唯一の大学生として、高校生や一般の方と違う視点からの発表を聞かせてくれました。



### 「城西大学読書感想文コンテスト2018」の表彰式を開催

12月8日、水田三喜男記念館にて「城西大学読書感想文コンテスト2018：読む・知る・伝える、読書の楽しみ。」の表彰式を開催し、グランプリ、準グランプリ、優秀賞の各受賞者に関俊暢図書館長より賞状と副賞が贈られました=写真。今年度は中学生244人、高校生69人の合計313人の応募がありました。

#### 受賞者(敬称略)

- 【グランプリ】「ハンセン病を生きてを読んで」伊東裕太(草加市立谷塚中学校3年)=書名「ハンセン病を生きて:きみたちに伝えたいこと」
- 【準グランプリ】「『100年後の水を守る』を読んで」田中優翔(城西川越中学校1年)=書名「100年後の水を守る:水ジャーナリストの20年」
- 【優秀賞】「13秒の風」中村有彩(三郷市立前川中学校1年)=書名「一瞬の風になれ 第一~三部」



### 「図書館と県民のつどい埼玉2018」に出展しました

12月16日に北本市文化センターで開催された「図書館と県民のつどい埼玉2018」に「江戸時代の娯楽としての数学」をテーマに出展しました。今回は理学研究科数学専攻教授・小木曾岳義先生にご協力いただき、『塵劫記』を中心に江戸時代の庶民が親しんだ数学について紹介し、和算を応用したゲームなども楽しんでいただきました=写真。



### 「地域アドバイザー おすすめ本」の ミニ展示を行いました

今年度の図書館地域アドバイザー\*の方に、学生の皆さんへ読んでほしい本を選んでいただきました。1冊ずつ選書コメント付きで図書館1階のミニ展示で紹介しました。

※図書館をよく利用される地域の方を対象に館長より委嘱。ご経験を活かし図書館活動をご支援いただいております。

### 坂戸市立城山中学校の生徒が図書館で職場体験をしました

1月23~25日の3日間、坂戸市立城山中学校1年生2人が図書館で職場体験学習を行いました。大学図書館についての説明を受けた後、カウンターでの貸出、返却圖書の配架、受入圖書の装備、お薦め図書POP作りなどを体験しました=写真。



## 考古資料室新設とモバイルミュージアム考古資料展示

2018年10月15日、水田記念図書館棟8階奥に「考古資料室」が新設されました。美術館には水田コレクション以外に、本学開校当初に坂戸市や近隣地域で発掘された土器を中心とした考古資料も所蔵されています。経営学部の石井龍太先生、現代政策学部の奈良澤由美先生、同土屋正臣先生のご協力により、所蔵考古資料の保存と公開を目的としたスペースが新たに設けられました=写真⑥。今後開かれた場所として、地域の文化財が多くの方の目に触れるよう準備を整えていく予定です。

また、文化財を身近に感じるため学内各所に資料を展示する「モバイルミュージアム」の第1弾として、考古資料の一部が17号館1階エントランスロビーに展示されています=写真⑦。ぜひご覧ください。



石井ゼミによる考古資料の整備作業

Art

美術館通信

## 特別展の関連企画を開催

特別展「坂戸市所蔵美術品展 現代版画の世界」(会期:2018年11月3日～2019年1月26日)の関連企画として、12月15日にワークショップを行いました。

女子美術大学の藤田百合氏(エディター)を講師にお招きし、展覧会テーマである「版画」から構想を得て、作品鑑賞をしながら厚紙や植物で版を作り、絵具をそこに塗ってスタンプの要領で押してオリジナルの版画作品に仕上げていきました。また、その他の関連企画として出品作家によるアーティストトークも行いました。12月22日に前期出品作家の鈴木英明氏、1月12日に後期出品作家の筆塚稔尚氏にそれぞれの作品について、制作背景や制作に向かう姿勢など大変興味深い内容をお話いただきました。



版にする葉を選ぶ



完成した作品(一部)



鈴木英明氏によるアーティストトーク



筆塚稔尚氏によるアーティストトーク

## 中学生が美術館業務を体験

水田美術館では2016年度から、中学生の職場体験学習の受け入れを行っています。昨年度は、2019年1月23、24日の2日間、坂戸市立城山中学校から1年生男子生徒2名を受け入れ、開館準備、お客様対応、展覧会案内発送業務=写真、アンケート集計など美術館での業務を実際に体験してもらいました。

この体験を通して生徒から「自分が細かい作業が好きだと分かった」「美術館の仕事の大変さが分かった」といった感想をいただき、少しでも「働く」ことの意味をお伝えできたのではないかと思います。美術館では今後も引き続き、こうした地域連携と貢献活動に力を注いでいきます。



## エリア紹介

### 坂戸市

#### 第18回 坂戸市民スポーツフェスティバル

坂戸市民総合運動公園で4月28日(日)、第18回坂戸市民スポーツフェスティバルが開かれます。

当日は、午前8時30分からのオープニングセレモニー(市民体育祭総合開会式、スポーツ表彰、ラジオ体操)に始まり、城西大学男子駅伝部へのインタビュー、城西大学チアリーダー部・山村国際高校バントワーリング部の演奏、浅



羽野中学校吹奏楽部の演奏、ウェル坂戸によるキッズダンスなどが行われます。

会場では、坂戸市体育協会、坂戸市レクリエーションスポーツ協会各加盟団体による各種スポーツを体験できるブースや模擬店が設置され、子どもから大人まで楽しめるイベントとなっています。

また、今回はゲストとして、元全日本女子バレーボール選手の大山加奈さんをお呼びし、小学生を対象としたバレーボール教室を予定していますので、ぜひお越しください。

### 鶴ヶ島市

#### 2020年に向けて 生まれる交流

今年の夏、鶴ヶ島市と城西大学にミャンマー選手団がやってきます。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、鶴ヶ島市はミャンマー連邦共和国のホストタウンに登録されており、さまざまな交流イベントを開催しています。

8月下旬には、城西大学と一緒にミャンマー選手団を受け入れて、事前キャンプを行うことになりました。受け入れる種目は、陸上と柔道の2種目。城西大学のスポーツ施設を使い、ミャンマー選手団と交流できるイベントを予定しています。また鶴ヶ島市では、9月1日(日)に事前キャンプに合わせて、市役所で「鶴ヶ島水かけまつり」を開催します。鶴ヶ島市の伝統行事「脚折雨乞」とミャンマーの国民的な水かけ行事「ダジャン」を融合させた交流イベントです。

脚折雨乞に使われる龍蛇のパレードやミャンマー料理などが楽しめる屋台の出店も予定していますので、ぜひ遊びに来てください。2020年に向けたミャンマーとの交流。皆さんもミャンマーを身近に感じてみませんか。



昨年の「鶴ヶ島水かけまつり」の様子

### 東武線沿線情報

#### 「川越特急」で 春の小江戸を満喫しませんか?

東武東上線池袋駅から特急料金不要の新種別「川越特急」で小江戸「川越」までは最速26分! かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていました。今でも江戸の風情が残る蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあります。その他にスイーツはもちろん、芋料理など多くの飲食店が軒を連ねています。

また、川越では5月にかけて、「第30回 小江戸川越 春まつり」が開催され、春の風物詩として、オープニングイベントを皮切りに長期にわたってさまざまなイベントが行われます。

お出かけには便利でお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」がお薦めです。

#### ■ 池袋から大人1000円

- ◇ 川越駅・川越駅までの東武東上線往復鉄道運賃が割引
- ◇ 東武バス1日乗り放題(指定区間)
- ◇ 協賛店のうれしいサービス

#### ■ 問い合わせ

東武鉄道お客さまセンター(☎03-5962-0102)  
(8:30~19:00 年中無休ただし年末年始を除く)



編集/学校法人城西大学 広報センター  
発行/城西大学 総務部総務課  
〒350-0295  
埼玉県坂戸市けやき台1-1  
TEL:049-271-7712  
http://www.josai.ac.jp

2019年4月発行